

第33期第11回研究会「国際コミュニケーションの新たな展開とその可能性 ～中国のミニブログを事例として～」(ジャーナリズム研究・教育部会企画) 終わる

日 時：2013年3月15日(金) 16:30～18:45

場 所：関西大学千里山キャンパス 社会学部(第3学舎) C502 教室

問題提起者：劉 雪雁(関西大学社会学部准教授)

司 会：吉岡 至(関西大学)

参 加 者：20名

記録執筆：吉岡 至

本研究会では、近年、大きく変化している中国のメディア事情、とくにミニブログ・微博(ウェイボー)の展開に注目し、既存のマスメディアとの融合を視野に入れた、インターネット上でのグローバルなコミュニケーション/ジャーナリズムの新たな可能性について議論した。

まず、問題提起者の劉雪雁さんから、最新のデータや動向を確認しながら、① 中国インターネットの利用状況、② 微博の概況と特徴、③ 既存のマスメディアと微博との連動・融合、④ 海外マスメディアの微博への参入、⑤ SNS 上のグローバルなコミュニケーション/ジャーナリズムの可能性、などについて具体的かつ詳細な報告があった。

報告によれば、中国では、5億5千万人を超えるインターネットユーザーのうちモバイルネットユーザーがかなり多く、都市部だけでなく、マスメディアが十分に浸透していない農村部においてもモバイルメディアを通じて、海外からの情報を含めて、さまざまな社会的情報が利用可能になっている。そのなかで、微博はネットユーザーの半数以上が利用しており、ソーシャルメディアとマスメディアの性格を兼ね備えた独自のサービスを行っており、ニュースメディアとしても位置づけられる。その微博を利用して、海外の通信社、新聞・雑誌、ジャーナリストなどからの中国語ニュース配信が活発になっており、中国国内への国際的な情報の流通と共有の新たな可能性が示唆される。

報告を受けて、① ネットの海外情報が中国全土に浸透していく動向、② 微博はきわめてドメスティックでローカライズされたユニークなメディアである点、③ 微博の普及・影響と関連する利用者意識の把握の必要、④ 微博が既存のマスメディアを凌ぐ影響力をもち、メディア利用が微博に収斂し可能性、⑤ 海外のニュースメディアの参入意図・運営方法やジャーナリズム活動への意義や課題、などについて議論が交わされた。